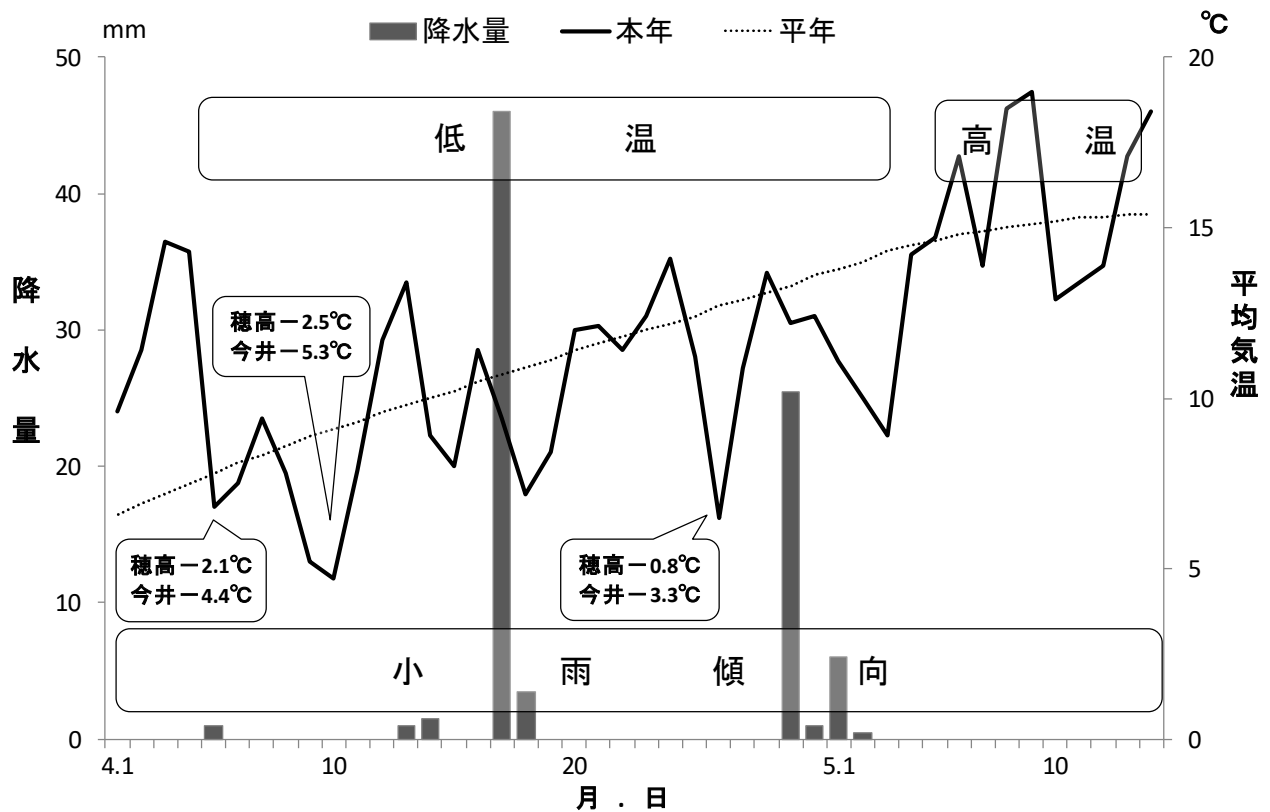


令和3年 作物技術普及情報 第7号

(麦の生育状況・成熟期予測について)

令和3年 気象経過(穂高アメダス 4月1日~5月14日)



1 気象状況

5月連休前半までは低温傾向でしたが、以降は高温傾向となっています。5月13日気象庁発表の予想では、5月20日頃からかなりの高温が予想されています。

2 麦の生育状況

- 5月16日現在、生育の良好な圃場の現在の生育ステージは、以下の通りです。

【大 麦】 登熟初～中期（管内の出穂期は4月20日～4月30日。
（ピークは4月25日頃）
【小 麦】 開花期（管内の出穂期は5月1～10日。
（ピークは5月7日頃）

5月連休前半までが低温だったため、当初より生育は遅れてきました。

松本市島内の定点圃場では、大麦の出穂期は4月24～25日で平年より4～5日早ですが、小麦は平年より3～5日早でした。

- 5～6月の気温は平年並みから高いと予想されており、大麦の成熟期は平年よりやや早く、6月初旬より成熟期を迎えると予想されます。

5月14日現在の積算気温による成熟期の推定を提供させていただきますので、ご活用いただき、コンバインや乾燥施設の稼働準備を早めに進めるようお願いいたします。

- 成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。凍霜害を受けて穂数が少ない圃場では、予想より成熟期が早まると思われれます。

少雨傾向が続いているため、根の生育の劣る圃場や極端にやせた圃場では予想より成熟が早まる可能性があります。また登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります（例 平成27年）。

- 今年は収穫開始時期の判断がポイントになると思いますので、圃場の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やすなど適期収穫に向けた取り組みをお願いします。

【参考】登熟積算気温による大・小麦の成熟期の推定(5月14日現在)

成熟期までの積算気温を大麦は650～700℃、小麦は850～900℃として推定しています。

平均気温は穂高アメダス値です。5月14日までは本年値、以降は平年値を用いています。

月日	平均気温	大 麦				小 麦					
		4月20日出穂圃場									
4月20日	12.0	4月20日出穂圃場									
4月21日	12.1		12								
4月22日	11.4		24								
4月23日	12.4		36								
4月24日	14.1		50								
4月25日	11.2		61	4月25日出穂圃場							
4月26日	6.5		68		7						
4月27日	10.9		79		17						
4月28日	13.7		92		31						
4月29日	12.2		105		43						
4月30日	12.4		117		56	4月30日出穂圃場					
5月1日	11.1		128		67	11	5月1日出穂圃場				
5月2日	10.0		138		77	21	10				
5月3日	8.9		147		86	30	19				
5月4日	14.2		161		100	44	33				
5月5日	14.7		176		115	59	48	5月5日出穂圃場			
5月6日	17.1		193		132	76	65	17			
5月7日	13.9		207		146	90	79	31			
5月8日	18.5		225		164	108	97	50			
5月9日	19.0		244		183	127	116	69			
5月10日	12.9		257		196	140	129	81	5月10日出穂圃場		
5月11日	13.4		271		209	154	143	95	13		
5月12日	13.9		285		223	168	157	109	27		
5月13日	17.1		302		240	185	174	126	44		
5月14日	18.4		320		259	203	192	144	63		
5月15日	15.5		336		274	219	208	160	78		
5月16日	15.6		351		290	234	223	175	94		
5月17日	15.7		367		306	250	239	191	110		
5月18日	15.8		383		321	266	255	207	125		
5月19日	16.0		399		337	282	271	223	141		
5月20日	16.1		415		354	298	287	239	158		
5月21日	16.2		431		370	314	303	255	174		
5月22日	16.4		447		386	330	319	272	190		
5月23日	16.5		464		403	347	336	288	207		
5月24日	16.6		480		419	364	352	305	223		
5月25日	16.8		497		436	380	369	321	240		
5月26日	16.9		514		453	397	386	338	257		
5月27日	17.1		531		470	414	403	355	274		
5月28日	17.2		548		487	432	420	373	291		
5月29日	17.4		566		505	449	438	390	309		
5月30日	17.5		583		522	466	455	408	326		
5月31日	17.7		601		540	484	473	425	344		
6月1日	17.9		619		558	502	491	443	362		
6月2日	18.0		637		576	520	509	461	380		
6月3日	18.2	成	655		594	538	527	479	398		
6月4日	18.3	成	673		612	557	545	498	416		
6月5日	18.5	成	692		631	575	564	516	435		
6月6日	18.6		711	成	649	594	583	535	453		
6月7日	18.8		729	成	668	612	601	554	472		
6月8日	18.9		748	成	687	631	620	572	491		
6月9日	19.0		767		706	成	650	639	510		
6月10日	19.1		786		725	成	669	658	529		
6月11日	19.2		806		744	成	689	678	548		
6月12日	19.4		825		764		708	697	568		
6月13日	19.5		844		783		728	716	587		
6月14日	19.6		864		803		747	736	607		
6月15日	19.7							756	627		
6月16日	19.8							776	646		
6月17日	19.9							795	666		
6月18日	20.0							815	686		
6月19日	20.1							836	706		
6月20日	20.2						成	856	727		
6月21日	20.3						成	876	747		
6月22日	20.4						成	896	成	767	
6月23日	20.5							917	成	788	
6月24日	20.6							938	成	808	
6月25日	20.8							958		829	
6月26日	20.9							979		850	
6月27日	21.0							1000		成	871
6月28日	21.1							1021		成	892
6月29日	21.3							1043			913
6月30日	21.4							1064			935

3 麦の凍霜害と収穫に向けた対応について

- 葉先枯、葉の黄化、株の生育抑制、幼穂枯死、圃場内の出穂遅延(出穂ムラ)が発生しています。出穂後10日ほど経過して、ようやく被害程度が判断できるようになってきました。

センターの調査では、被害を受けた圃場は、梓川・奈良井川・犀川等の河川ぞいや、高速道路ぞいで多いように思われます。

また標高の低い圃場、11月初旬までの播種等で生育が進んでいた圃場で被害が多いように思われます。

- 凍霜害を受けて穂数が少ない圃場は予想より収穫時期が早まることが予想されます。また出穂のばらつきが大きい圃場では成熟期がばらつき、未熟粒の混入により収穫時の穀粒水分の差が大きくなり、乾燥調整に時間がかかることも予想されます。
- 本年は収穫時期の判断が非常に難しい年になると思われます。麦の品質維持のため、出穂のばらつきが大きい圃場は別刈りとしたり、RCでは別荷受けにすることも想定されますので、圃場の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やす等、適期収穫に向けた取り組みをお願いいたします。
- また今後の気象状況(高温・降水)によっては、凍霜害の被害を受けた圃場で赤カビ病の発生が危惧されますので、圃場の生育状況にご注意ください。

4 水稻の育苗・本田初期の管理

(1) 育苗管理と本田初期の水管理の徹底

- 田植え作業のピークは過ぎましたが、育苗ハウス内は高温となりやすい時期です。引き続きハウス内の換気を十分行うようにお願いします。
- 連休前半までは風も強く低温傾向だったため、この時期に移植された圃場では植傷みを受け、活着がやや遅れているようです。

このため移植後の水管理には細心の注意をはらい、活着促進のため水管理の徹底をお願いします。移植後は3～4 cmのやや深水管理として、強風や低温による植えいたみを防ぎ、新根が出て活着したら、2～3 cmの浅水管理として初期生育と分けつの促進を図るようお願いします。

- 5月20日頃からかなりの高温が予想されています。高温になると地温上昇で「ガスわき」が発生し、根傷みで分けつが抑制されたり、表層剥離が多発することも予想されます。

このためワキやすい圃場（有機物が多い圃場、4月に入ってから耕起された圃場等）は注意していただき、ワキの多い水田や表層剥離の多発した水田は軽く落水する。分けつが抑制された水田では浅水管理する・・・等、水稻の生育状況に合わせた水管理の徹底をお願いします

(2) 除草剤の処理について

- ジャンボ剤や250 g剤（豆つぶ剤）などの少量自己拡散型の除草剤が使用されることが多くなってきました。このような除草剤を使用する場合は、水深を8～10 cm程度に深くしてから除草剤を処理することが、効果を高めるポイントになりますので、処理時の水深には気をくばるようご指導をお願いします。
- 水管理が不十分で雑草が残ったり、再発生する場合があります。特にヒエやホタルイは葉令が進んでから気づく場合が多いです。このため除草剤処理から7日後位には、圃場状況を必ず確認するようにお願いします。残草状況によっては、中期剤の対応をお願いします。

(3) 農薬誤用防止と除草剤処理後の水管理の徹底について

- ・ 毎年、苗箱施薬剤と除草剤を取り違える事例が発生しています。誤用防止や、除草剤散布時期の確認について、十分な注意喚起をお願いします。
- ・ 水管理の不徹底（水口の閉め忘れ等）により、畦から田面水がオーバーフローするなどのトラブルが報告されています。水管理の徹底については、十分な注意喚起をお願いします。